

# まとめと提言

2018年3月26日

国際社会経済研究所

アクセシビリティ研究会

主査 山田 肇

# 研究会からの提言

1. デジタル化された情報がイノベーションにつながる
2. データはEBMやEBPMに活用する
3. EBMやEBPMで利用可能なデータを増やす
4. EBMやEBPMで扱えるデータ種別を増やす：  
PHRの導入
5. EBMやEBPMで活用するデータの質を向上させる
6. 根拠を持ってAIの価値を明らかにする
7. 根拠を持ってIoTの価値を明らかにする
8. AIやIoTの活用にはアクセシビリティは不可欠である

# 根拠に基づく政策形成（EBPM）

- Evidence Based Medicine（根拠に基づく医療：EBM）から発展し、担当者の勘や経験に頼った政策形成プロセスを打破する手法がEBPM
- Evidence Based Policy Making：政策オプションの中から決定し選択する際に、現在最も有益なエビデンスを誠実かつ明確に活用すること
- Evidence（エビデンス）：バイアスのない方法により得たデータを、バイアスのない方法で分析して得られた結果

# EBMやEBPMで利用可能なデータを 増やす：電子カルテの場合

- 全病院・全診療所への電子カルテ導入経費は1兆6000億円。国費でまかなうのは適切か？
- EBPM手法による実証実験で導入効果を検証する
  - 地域①：病院や診療所の中だけに閉じたスタンドアロンなシステムとして電子カルテを導入する地域
  - 地域②：同一患者のカルテを病院や診療所で共有できる可能性を担保して電子カルテを導入する地域
  - 地域③：病院や診療所での協力態勢構築を義務として課して実際に地域医療を推進する地域
  - 地域④：感染症に関わる情報は自動的に保健所に送信して、感染症の流行抑制に活用する地域
  - 地域⑤：……

# 研究会からの提言

1. デジタル化された情報がイノベーションにつながる
2. データはEBMやEBPMに活用する
3. EBMやEBPMで利用可能なデータを増やす
4. EBMやEBPMで扱えるデータ種別を増やす：  
PHRの導入
5. EBMやEBPMで活用するデータの質を向上させる
6. 根拠を持ってAIの価値を明らかにする
7. 根拠を持ってIoTの価値を明らかにする
8. AIやIoTの活用にはアクセシビリティは不可欠である

# アクセシビリティの重要性

- 高齢者が利用するAIやIoTについては、情報アクセシビリティへの配慮が必要不可欠であり、初期から技術的条件を組み込むように開発を進めるべき
  - 理由：AIが生成したアドバイスは、医療従事者のほか、高齢者を含む一般の人々に提供される。高齢者見守りIoTなどIoTも同様
  - 理由：米国や欧州では情報アクセシビリティが公共調達要件であり、日本企業が輸出する際には技術的条件の充足が必須